生命科学・医学系研究実施のお知らせ

東京慈恵会医科大学倫理委員会の審査を受け、以下の研究を実施しております。

本研究に関する内容の詳細等、お知りになりたい方は下記【問い合わせ先】までご連絡ください。なお、試料・情報が本研究に用いられることについて、研究の対象となる方（もしくは代理人の方）にご了承いただけない場合は研究対象から除外いたしますので、下記【問い合わせ先】までお申し出ください。

【研究課題名】	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術における術後鎮痛法と術後疼痛・術後悪心嘔吐との関連：後ろ向き観察研究		
1.研究の目的と方法	当院では肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術（laparoscopic sleeve gastrectomy: LSG）の術後鎮痛法として持続末梢神経ブロックと経静脈的自己調節鎮痛法（intravenous patient-controlled analgesia: IV-PCA）を併用していましたが、術後の悪心・嘔吐（postoperative nausea and vomiting: PONV）が多く出現しており、現在では持続末梢神経ブロックのみを使用しております。 本研究は、持続末梢神経ブロックと IV-PCA を併用した場合と持続末梢神経ブロックのみの場合で術後疼痛や PONV の発生率を比較し、どのような影響を与えているかを検証するものです。		
2.研究期間	倫理委員会承認日～2031 年 9 月 30 日まで、研究の実施を予定しています。		
3.対象となる方等	当院で 2016 年 1 月 1 日～2026 年 9 月 30 日までに肥満症に対する LSG を受けた 20 歳以上の方。		
4.研究に利用する試料・情報について	(1)試料の種類	試料は使用しません。	
	(2)試料の取得の方法	試料は使用しないため、該当しません。	
	(3)情報の種類	POD（postoperative day）0～POD3 における安静時 NRS(numerical rating scale：痛みを 0 から 10 までの数字で表した場合の数値)、POD3 までの PONV（手術後に発症する吐き気や嘔吐）の有無、年齢、身長、体重、性別、疾患、手術種別、麻酔方法、術後鎮痛法、手術時間、出血量、術中輸血量、術中輸液量、 American Society of Anesthesiologists Physical Status（ASA-PS)、術中経過、術中使用薬剤、術中オピオイド使用量、術後使用薬剤、PONV 予防薬、末梢神経ブロックの方法および使用薬剤	
	(4)情報の取得の方法	診療録から診療時のデータを収集します。	
5.研究の実施体制	あなたの試料・情報は、以下の研究者が研究のために利用します。 試料・情報は、(3)の管理責任者が責任をもって、保管・管理します。		
	(1)当施設の研究責任者または研究代表者	研究機関名	東京慈恵会医科大学　麻酔科学講座
		氏名	木田康太郎
	(2)当施設の長	東京慈恵会医科大学　学長　松藤千弥	

	(3)当施設の試料・情報の管理責任者	(1)の研究責任者と同じ
	(4)共同で研究を実施する施設とその責任者	この研究では共同で研究を実施する機関はありません。
6.試料・情報を他機関とやり取りすることについて	この研究では、外部の機関と試料・情報をやり取りすることはありません。 試料・情報の利用開始予定日：2026 年 11 月以降	
【問い合わせ先】	機関名：東京慈恵会医科大学　麻酔科学講座 研究責任者：教授　木田　康太郎（きだ　こうたろう） 窓口担当者：助教　福島　隆威（ふくしま　りゅうい） 電話番号：03-3433-1111（内線 714040） 対応時間：平日 09：30　～　16：00	

※利用する情報等からは、お名前、住所、電話番号、カルテ番号など、個人を特定できる情報は削除いたします。研究成果を学会や論文で発表する際も個人が特定できる情報は利用いたしません。